

日本語と英語が混在する投稿規定の論文を作成する。

以下のような投稿規定の場合は、新たな作業が必要となります。

雑誌A 投稿規定

本文中に記載する引用・参考文献の著者名は、3名以内の場合は全員。
4名以上の場合は3名までを記載し、あとは「他」(et al.)と省略する。

記載例

(佐藤・鈴木・山田他,1990)

(Anderson,Tyler,Perry et al.,1993)

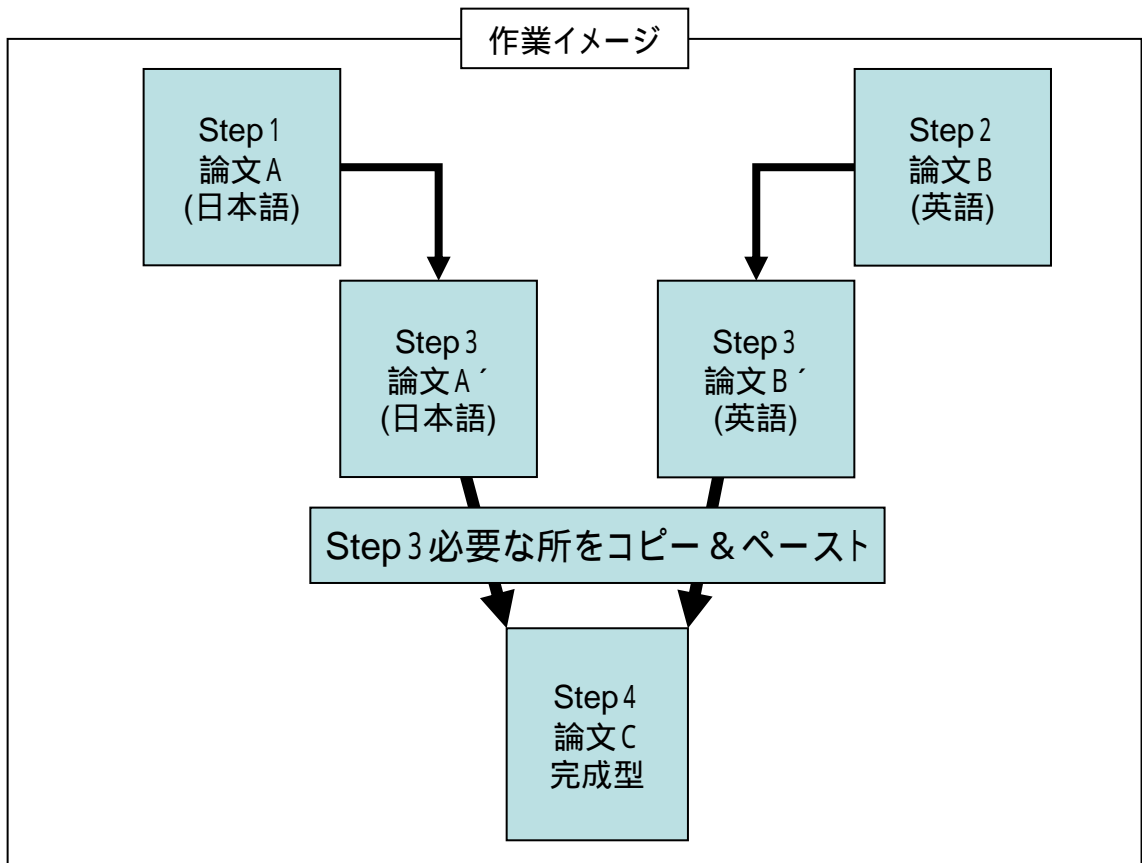
即ち

日本語の場合・・・「他」「著者・著者」を適用。

英語の場合・・・「et al.」「著者,著者」を適用。

2つの引用スタイルが混在

「EndNote」では、OutputStyleが1つしか指定できず、2パターンのOutputStyleをEditし、自分で作成します。

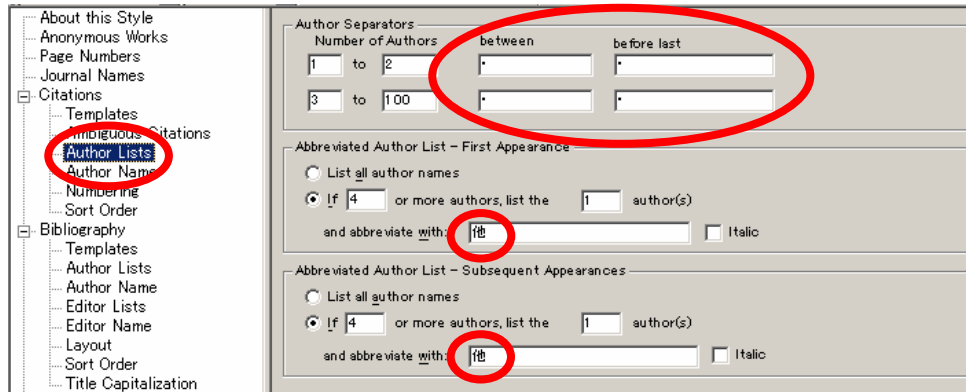


Step 1 : 日本語スタイル(論文A)を作成する。

1) 任意のOutputStyleを選択。

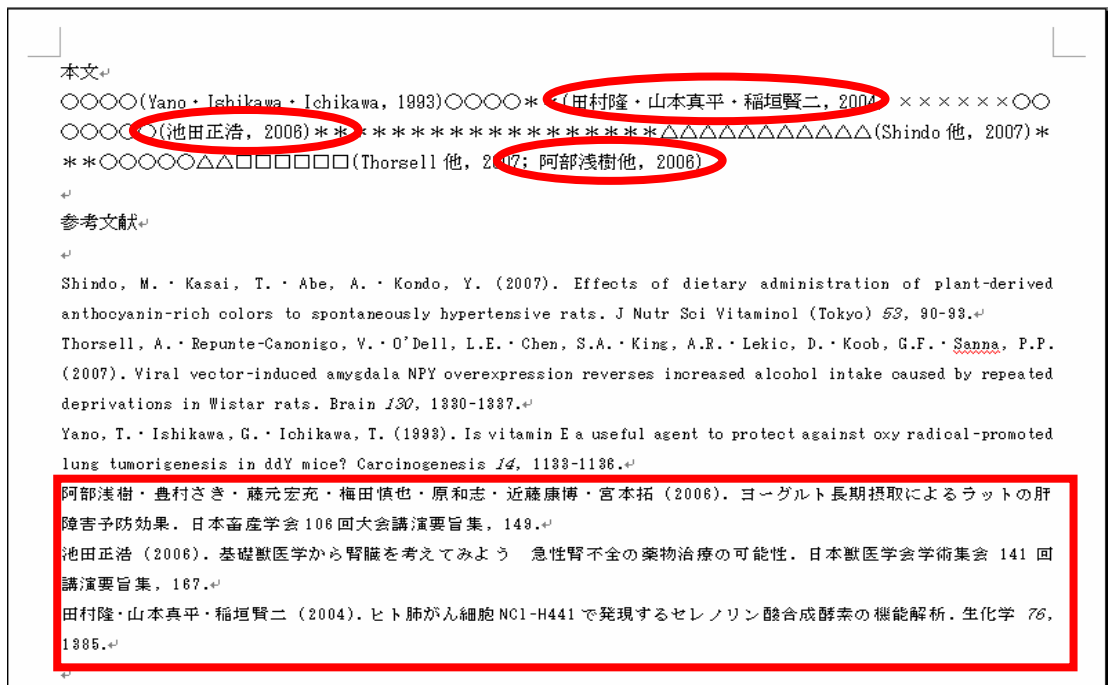
2) EditにてAuthorListをカスタマイズし、日本語スタイルを作成。

(Save Asにて別名保存)



OutputStyleのカスタマイズの詳細は、「日本語マニュアル」第15章の「参考文献スタイル」又は、弊社HPの「技術的なFAQ」の「アウトプットスタイル(投稿規程)がEndNoteにない場合」を参照。

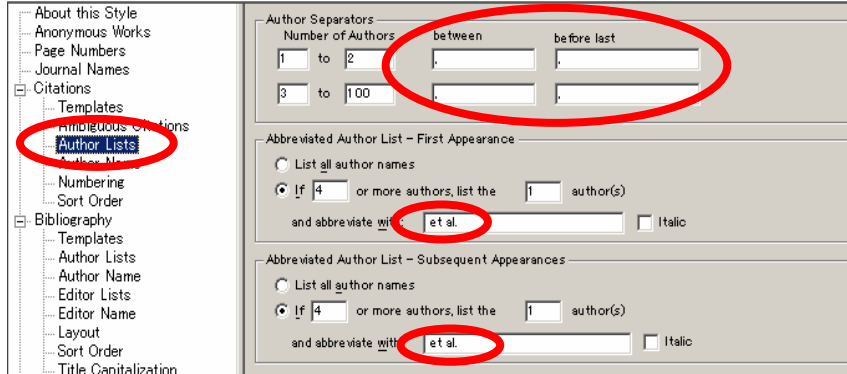
3) 論文Aを作成する。



日本語スタイルの完成

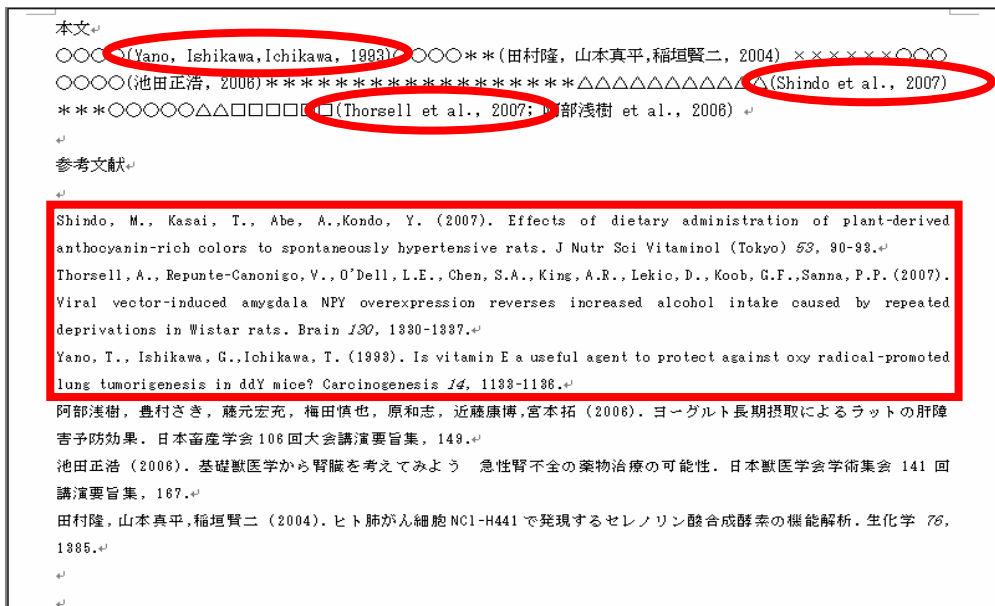
Step 2 : 論文 B を作成する。

- 1) 『論文 A』をコピーする。
- 2) 『論文 A』のOutputStyleを選択。
- 3) Step 1と同様にAuthorListをカスタマイズし、英語スタイルを作成。



OutputStyleのカスタマイズの詳細は、「日本語マニュアル」第15章の「参考文献スタイル」又は、弊社HPの「技術的なFAQ」の「アウトプットスタイル(投稿規程)がEndNoteにない場合」を参照。

4) 論文 B を作成する。



英語スタイルの完成

Step3 : 論文A及びBからField Codesをはずす。

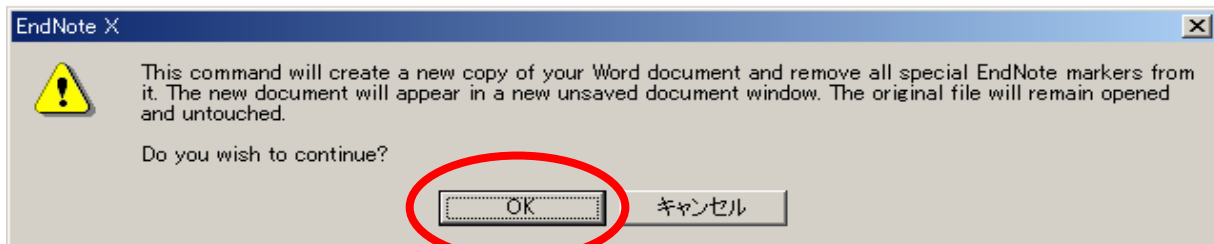
1)『論文A』、『論文B』ともに、EndNoteツールバーの「Remove Field Codes」(右から6番目)を選択し、「OK」をクリック。(新しいファイルで『論文A』『論文B』が出来る。

(この作業をしなければ、Formatで、同一スタイルに変わってしまう。)

注意！この作業をするとFormat、スタイル変更できなくなるので、必ず最後に行ってください！



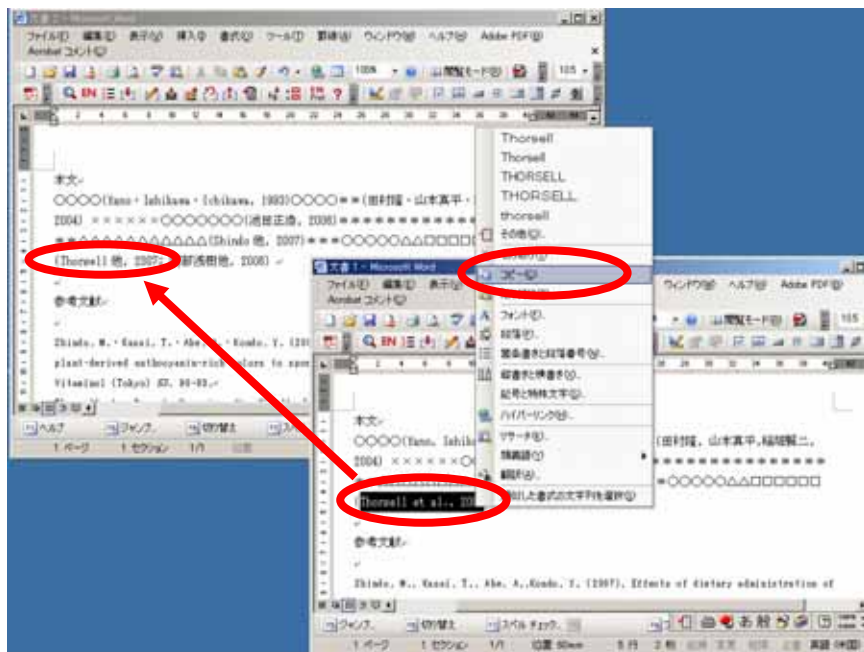
Remove Field Codes



「この操作でEndNoteのフィールドコードを取除いた新しいファイルを作ります。また、オリジナルファイルは維持されます。」
とのメッセージが表示されるので、「OK」をクリックしてください。

Step4 : 論文Cを作成する。

1)『論文B』から『論文A』に必要な箇所をコピー & ペースト。



2) 『論文C』の完成。

本文

○○○○(Yano, Ishikawa, Ichikawa, 1993)○○○○***(田村隆・山本真平・稲垣賢二, 2004) ×××××○○○○○○○○(池田正浩, 2006)*****△△△△△△△△△△(Shindo et al., 2007)***○○○○○○△△□□□□□□(Thorsell et al., 2007; 阿部浅樹他, 2006)

参考文献

Shindo, M., anthocyanin-r
Thorsell, A., Viral vector
deprivations
Yano, T., Ishikawa, G., Ichikawa, T. (1993). Is vitamin E a useful agent to protect against oxy radical-promoted lung tumorigenesis in ddY mice? *Carcinogenesis* 14, 1133-1136.
阿部浅樹・豊村さき・藤元宏充・稲田慎也・原和志・近藤康博・宮本拓 (2006). ヨーグルト長期摂取によるラットの肝障害予防効果. 日本畜産学会 106 回大会講演要旨集, 149.
池田正浩 (2006). 基礎獣医学から腎臓を考えてみよう 急性腎不全の薬物治療の可能性. 日本獣医学会学術集会 141 回講演要旨集, 187.
田村隆・山本真平・稲垣賢二 (2004). ヒト肺がん細胞 NCI-H441 で発現するセレノリン酸合成酵素の機能解析. 生化学 76, 1395.

投稿規定通りのスタイル

英語スタイル(「et al.」「著者, 著者」と)
日本語スタイル(「他」「著者・著者」)の混合

注意: 日本語著者の取り扱い

文中に引用される日本語著者の場合、姓・名共に表示されてしまうため、改めて、姓のみの表示に設定する必要があります。
ENXは、姓と名の間の「,」で姓と名を区別している。
日本語は姓と名の間に「,」が入らないため、姓名で一つの塊と見なしてしまう

『論文C』の日本語部分を自分で消す

本文

○○○○(Yano, Ishikawa, Ichikawa, 1993)○○○○***(田村隆・山本真平・稲垣賢二, 2004) ×××××○○○○○○○○(池田正浩, 2006)*****△△△△△△△△△△(Shindo et al., 2007)***○○○○○○△△□□□□□□(Thorsell et al., 2007; 阿部浅樹他, 2006)

↓

本文

○○○○(Yano, Ishikawa, Ichikawa, 1993)○○○○***(田村・山本・稲垣, 2004) ×××××○○○○○○○○(池田, 2006)*****△△△△△△△△△△(Shindo et al., 2007)***○○○○○○△△□□□□□□(Thorsell et al., 2007; 阿部他, 2006)